

## 産業廃棄物処理計画実施状況報告書

年 月 日

京都市長 宛

## 提出者

住 所 京都市南区上鳥羽鉢立町11番地3

氏 名 京都市公営企業管理者上下水道局長

吉川 雅則

(法人にあっては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 (075)672-7833

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第10項の規定に基づき、 年度の産業廃棄物処理計画の実施状況を報告します。

事業場の名称	京都市上下水道局下水道部鳥羽水環境保全センター
事業場の所在地	京都市南区上鳥羽塔ノ森梅ノ木1
事業の種類	F36 水道業
産業廃棄物処理計画における 計画期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日

## 産業廃棄物処理計画における目標値

項目	目標値	項目	目標値
排出量	853297t	全処理委託量	5650t
自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	t	優良認定処理業者への 処理委託量	1597t
自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	t	再生利用業者への 処理委託量	1818t
自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	841459t	認定熱回収業者への 処理委託量	t
自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	t	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t
※事務処理欄			

(日本産業規格 A列4番)

産業廃棄物処理計画実施状況報告書の〔集計用シート〕

- 産業廃棄物の種類ごと（排出したもの）に、①～⑯の各数値を記載してください。（自動で第2面に転記されます。）
- 下表にない産業廃棄物を排出した場合は、「産業廃棄物の種類」欄に、品目名を記載してください。
- 行が足りない場合は、行を追加してください。（また、シートを追加して、第2面を作成してください。）

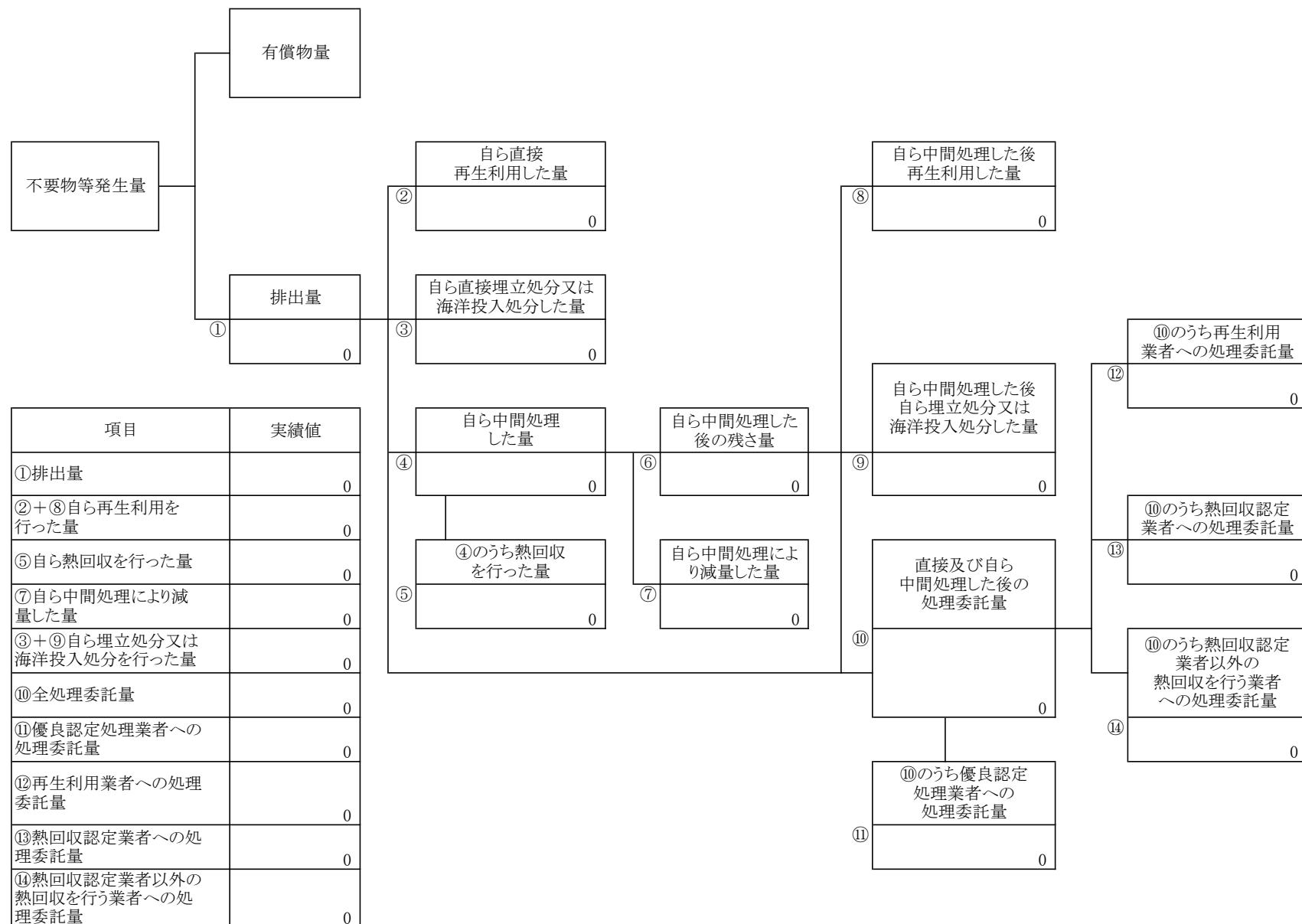
産業廃棄物の種類	計画の実施状況															②+⑧ 自ら再生利用した量(t)	③+⑨ 自ら埋立処分又は海上投入処分を行った量(t)		
	①排出量(t)	②自ら直接再生利用した量(t)	③自己直接埋立処分又は海洋投入処分した量(t)	④自ら中間処理した量(t)	⑤⑥のうち熱回収を行った量(t)	⑥自ら中間処理した後の残さ量(t)	⑦自ら中間処理した後により減量した量(t)	⑧自ら中間処理した後再生利用した量(t)	⑨自ら中間処理した後自ら埋立処分又は海洋投入処分した量(t)	⑩直接受け自ら自己処理した後の処理委託量(t)	委託先による区分			⑪優良認定処理業者への処理委託量(t)	⑫再生利用業者への処理委託量(t)	⑬熱回収業者以外の熱回収業者への処理委託量(t)	⑭その他の中間処理委託量(t)	⑮処理立地分委託量(t)	
法で定められている産業廃棄物の種類（シラレーターストなど、一体不可分のものについては、空欄に記してください。）	当該事業場において生じた産業廃棄物の種類ごとの量	①の量のうち、中間処理をせず自ら埋立処分又は海洋投入処分した量	①の量のうち、自ら中間処理を行った産業廃棄物の当該中間処理前後の量	④の量のうち熱回収を行った量	④の量から⑥の量まで引いた量	⑥の量のうち、自ら埋立処分又は海洋投入処分した量	⑥の量のうち、処理業者への委託量(⑪、⑫、⑬、⑭を除く)	⑥の量のうち、自ら利用した量	中間処理及び最終処分を委託した量	⑩の量のうち、処理業者への委託量(⑪、⑫、⑬、⑭を除く)	⑩の量のうち、認定熱回収設置者である機械回収設置者への委託量(⑪、⑫、⑬、⑭を除く)	⑩の量のうち、熱回収業者への委託量(⑪、⑫、⑬、⑭を除く)	⑩の量のうち、委託して他の焼却処理業者への委託量(⑪、⑫、⑬、⑭を除く)	⑩の量のうち、直接委託して焼却処理業者への委託量(⑪、⑫、⑬、⑭を除く)	⑩の量のうち、後良好認定処理業者への委託量(⑪、⑫、⑬、⑭を除く)	⑩の量と⑧の量を合計したものの自動計算)	⑩の量と⑨の量を合計したものの自動計算)		
燃え殻						0			0								0	0	
汚泥	776,035			775,753	10,444	765,309	5,193		5,533	1,699					3,834	1,020	5,193	0	
廃油	6					0			6	6							0	0	
廃酸						0			0								0	0	
廃アルカリ						0			0								0	0	
廃プラスチック類	1					0			1						1	1	0	0	
ゴムくず						0			0								0	0	
金属くず	5					0			5						5	5	0	0	
ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず	0					0			0						0	0	0	0	
鉛さい						0			0								0	0	
がれき類						0			0								0	0	
ばいじん						0			0								0	0	
紙くず						0			0								0	0	
木くず	0					0			0						0	0	0	0	
繊維くず						0			0								0	0	
動物性残渣						0			0								0	0	
動物系固形不要物						0			0								0	0	
石綿含有産業廃棄物						0			0								0	0	
廃石膏ボード						0			0								0	0	
混合廃棄物(安定型)						0			0								0	0	
混合廃棄物(管理型)						0			0								0	0	
蛍光灯・ランプ(水銀製品)	0					0			0						0		0	0	
電池類(水銀製品)	0					0			0						0		0	0	
合計	776,048	0	0	775,753	0	10,444	765,309	5,193	0	5,546	1,705	0	0	0	7	3,834	1,026	5,193	0

(注)トン未満は原則として四捨五入。ただし、数字が有効であれば小数点以下3桁まで記載は可。

## 計画の実施状況

(産業廃棄物の種類: 燃え殻 )

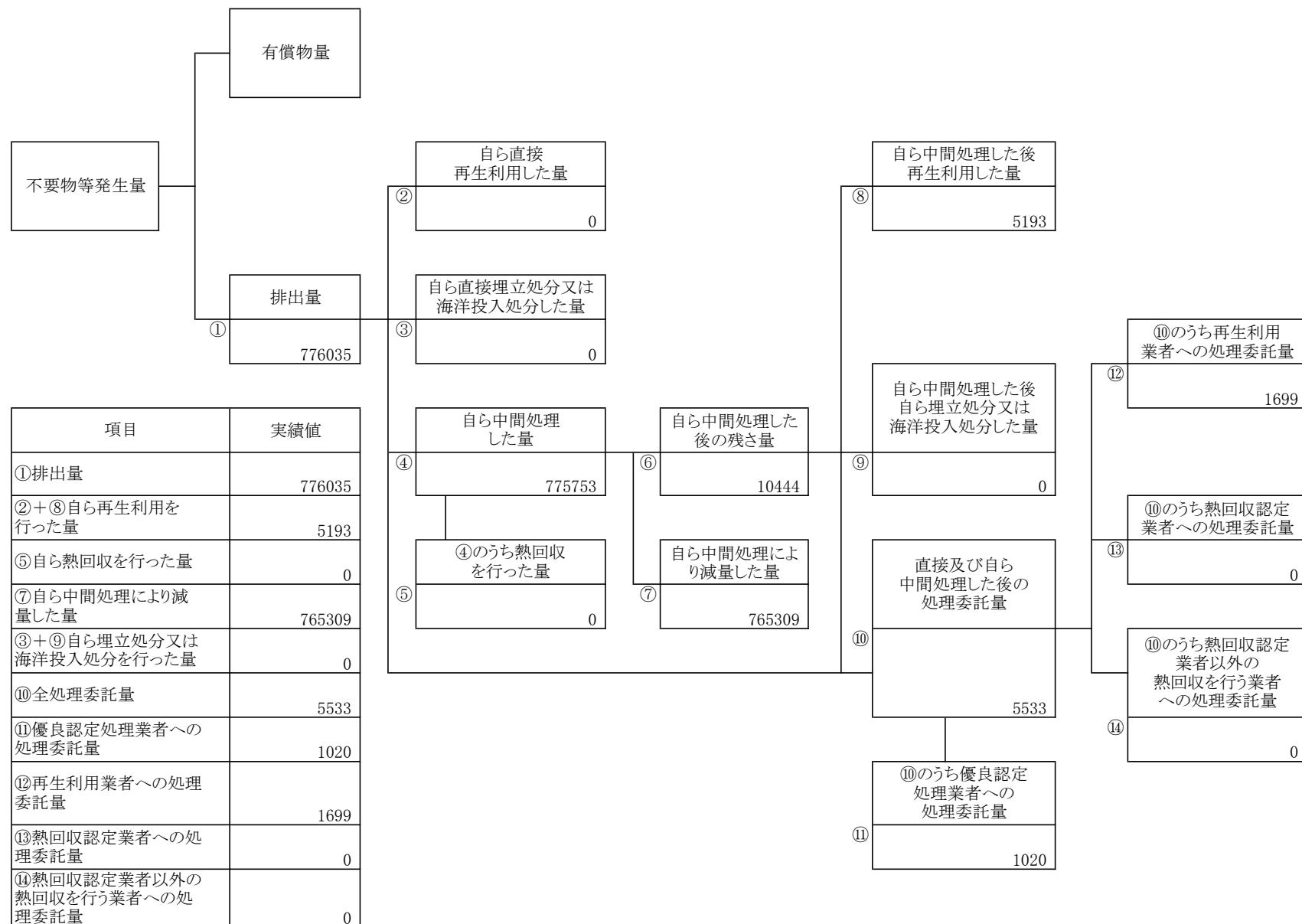
(第2面)



## 計画の実施状況

(産業廃棄物の種類: 汚泥 )

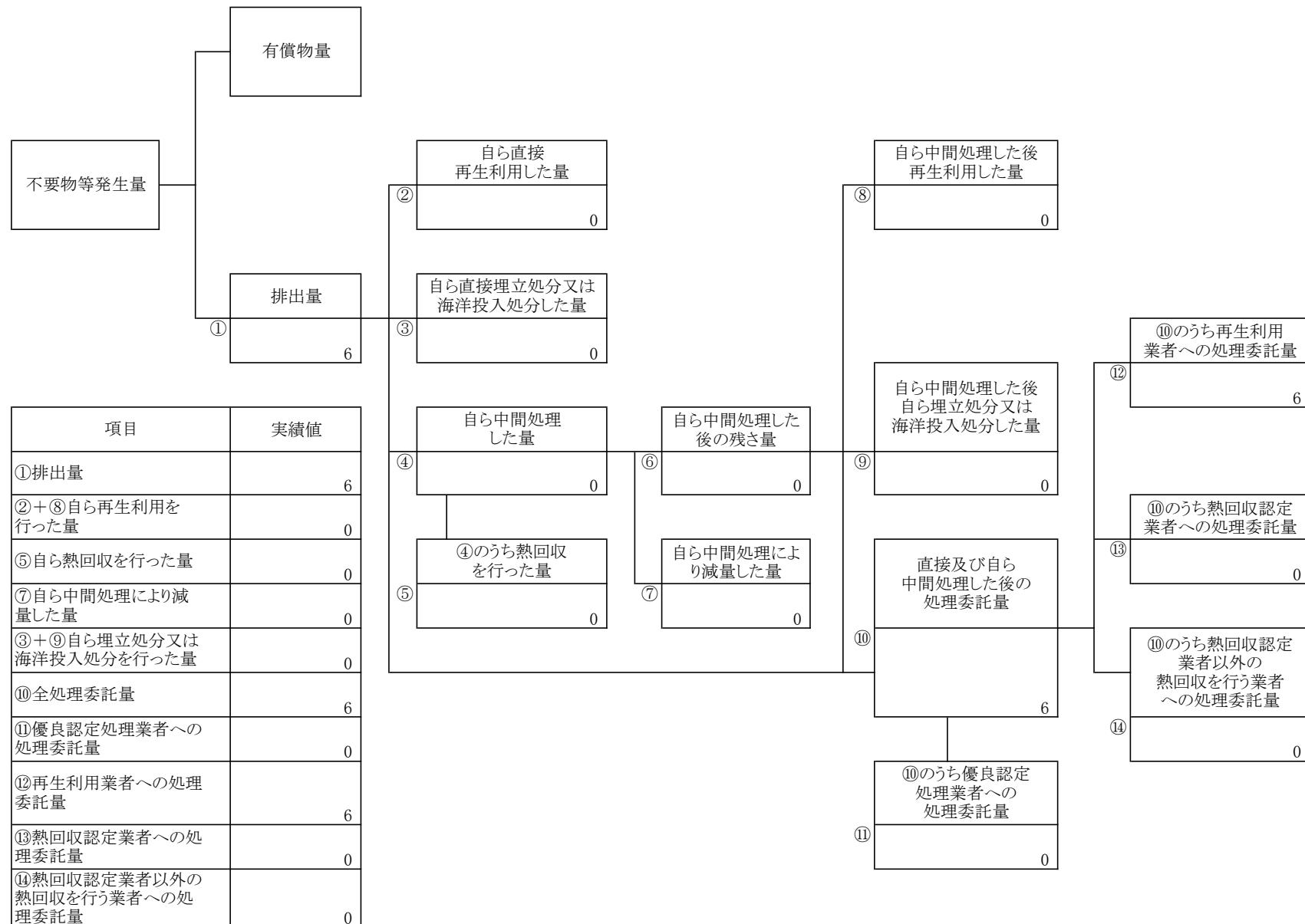
(第2面)



## 計画の実施状況

(産業廃棄物の種類: 廃油 )

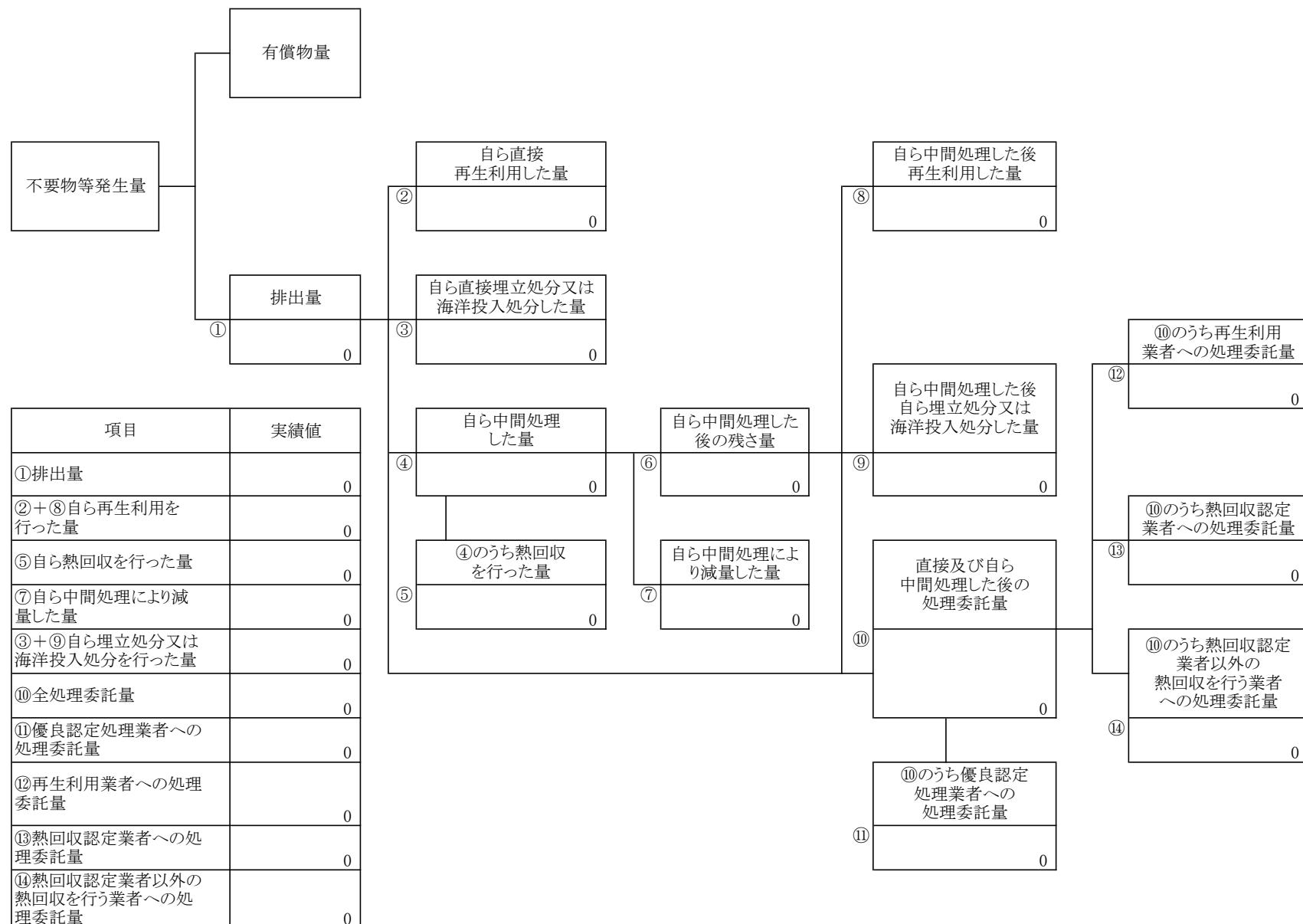
(第2面)



計画の実施状況

(産業廃棄物の種類: 廃酸)

)

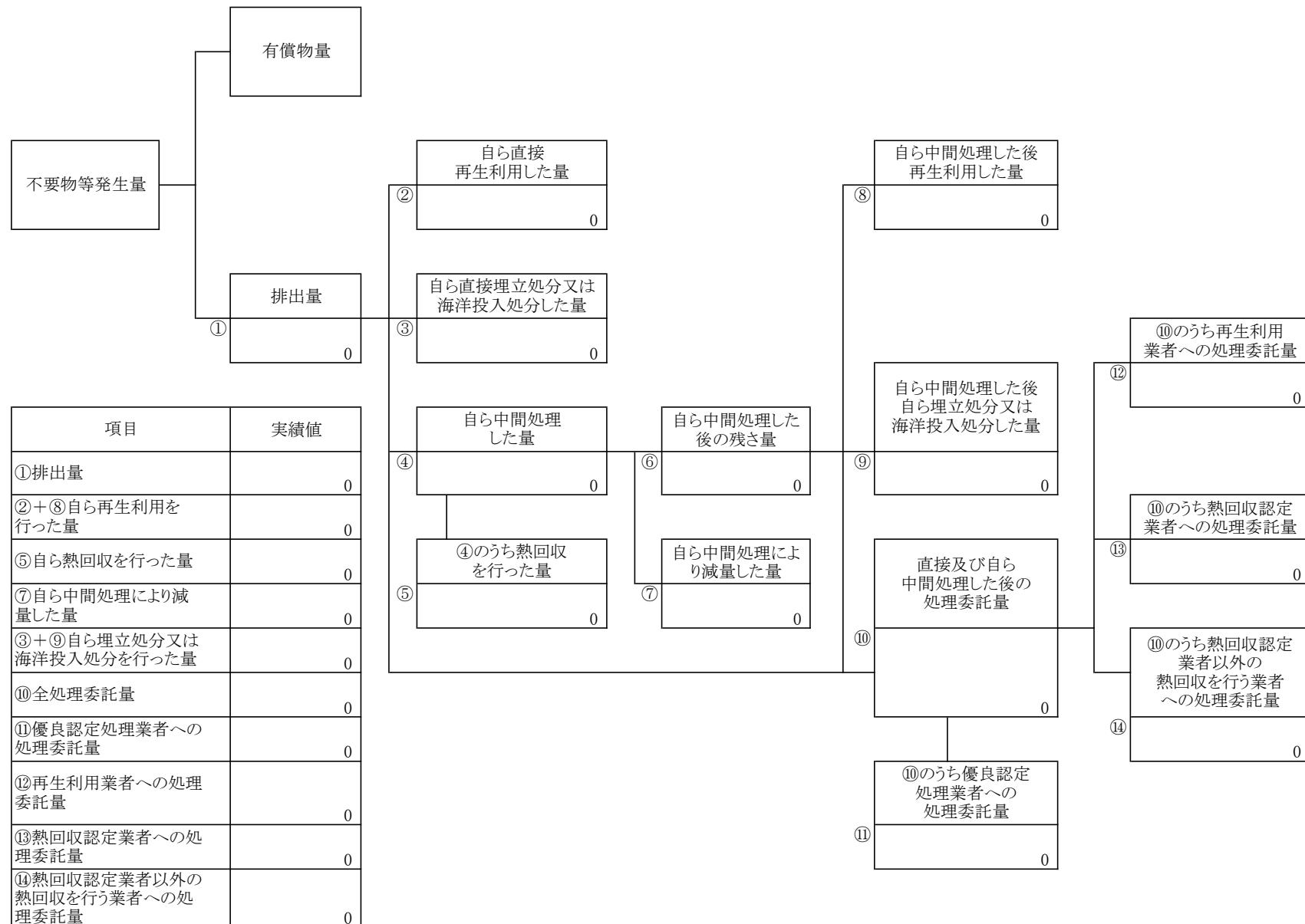


(第2面)

## 計画の実施状況

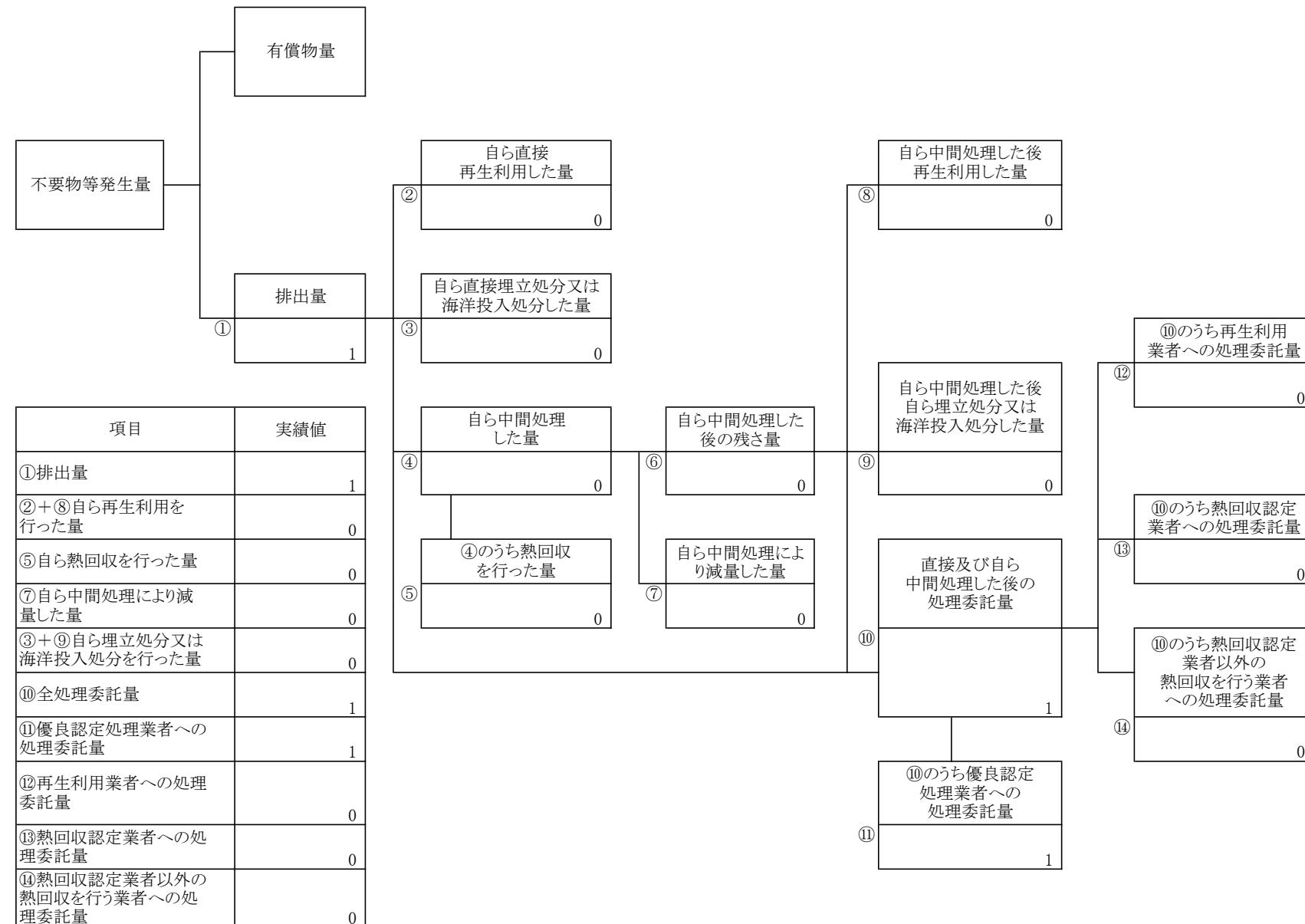
(産業廃棄物の種類: 廃アルカリ )

(第2面)



## 計画の実施状況

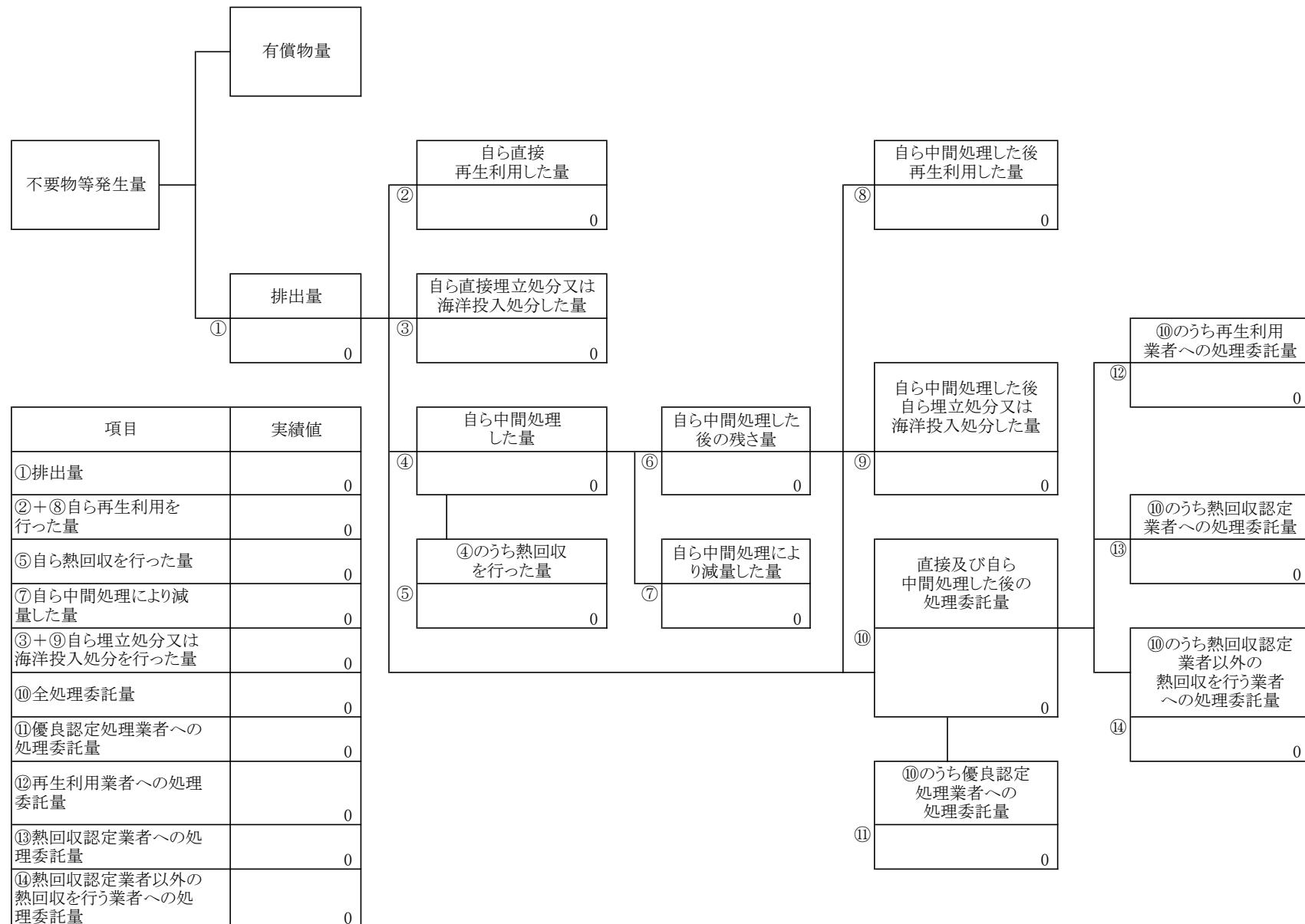
(産業廃棄物の種類：廃プラスチック類)



## 計画の実施状況

(産業廃棄物の種類: ゴムくず )

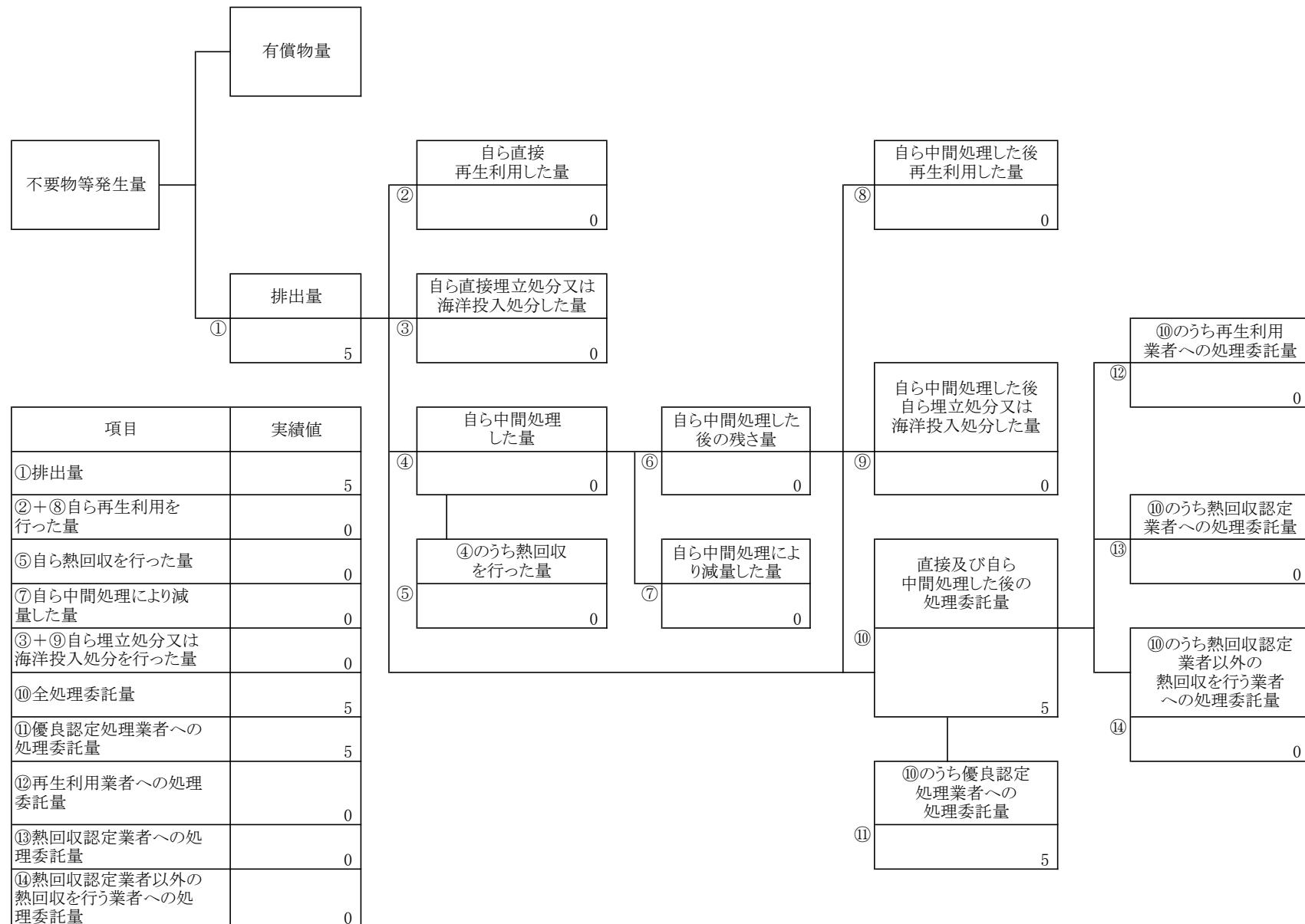
(第2面)



## 計画の実施状況

(産業廃棄物の種類: 金属くず )

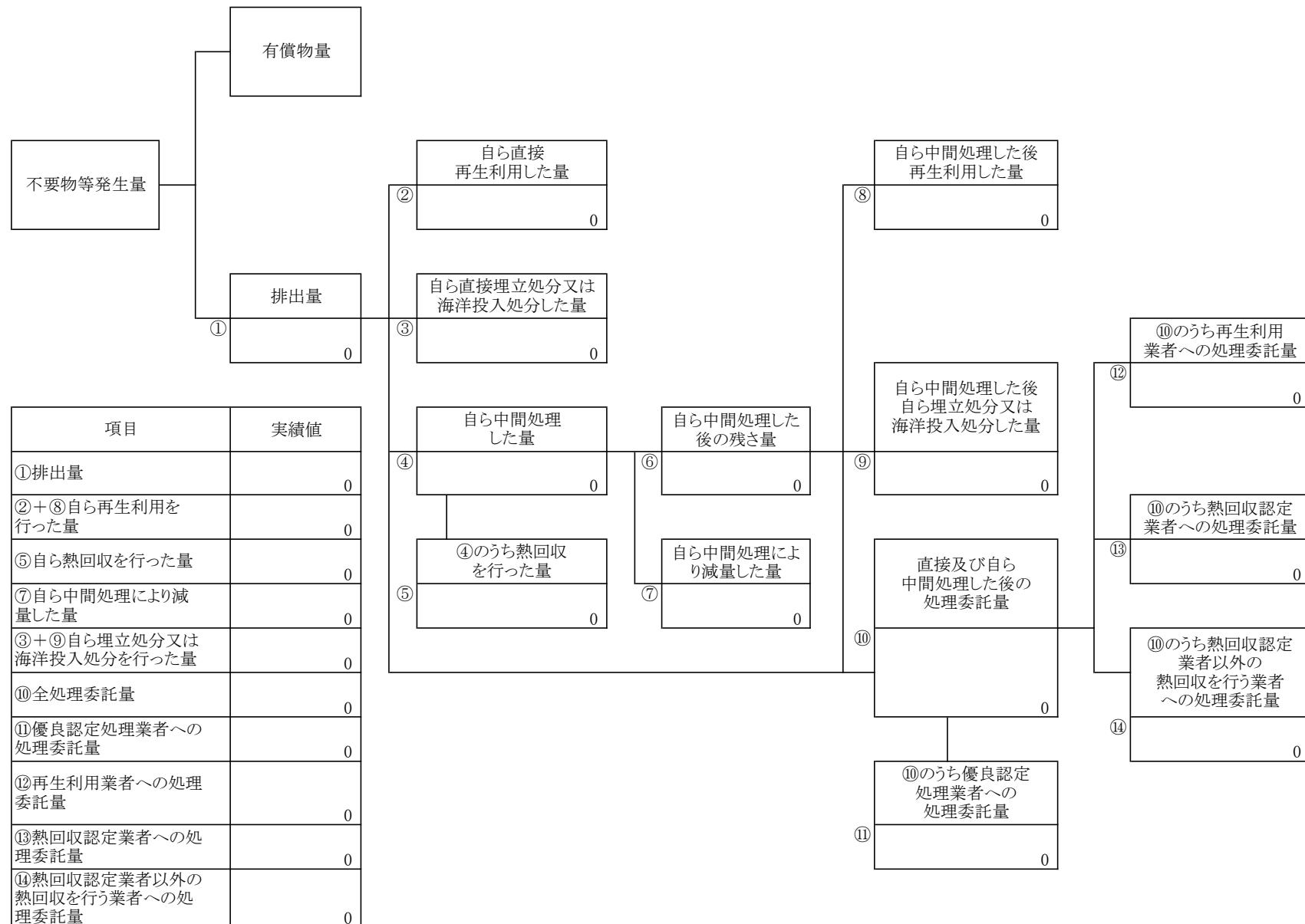
(第2面)



## 計画の実施状況

(産業廃棄物の種類：ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず)

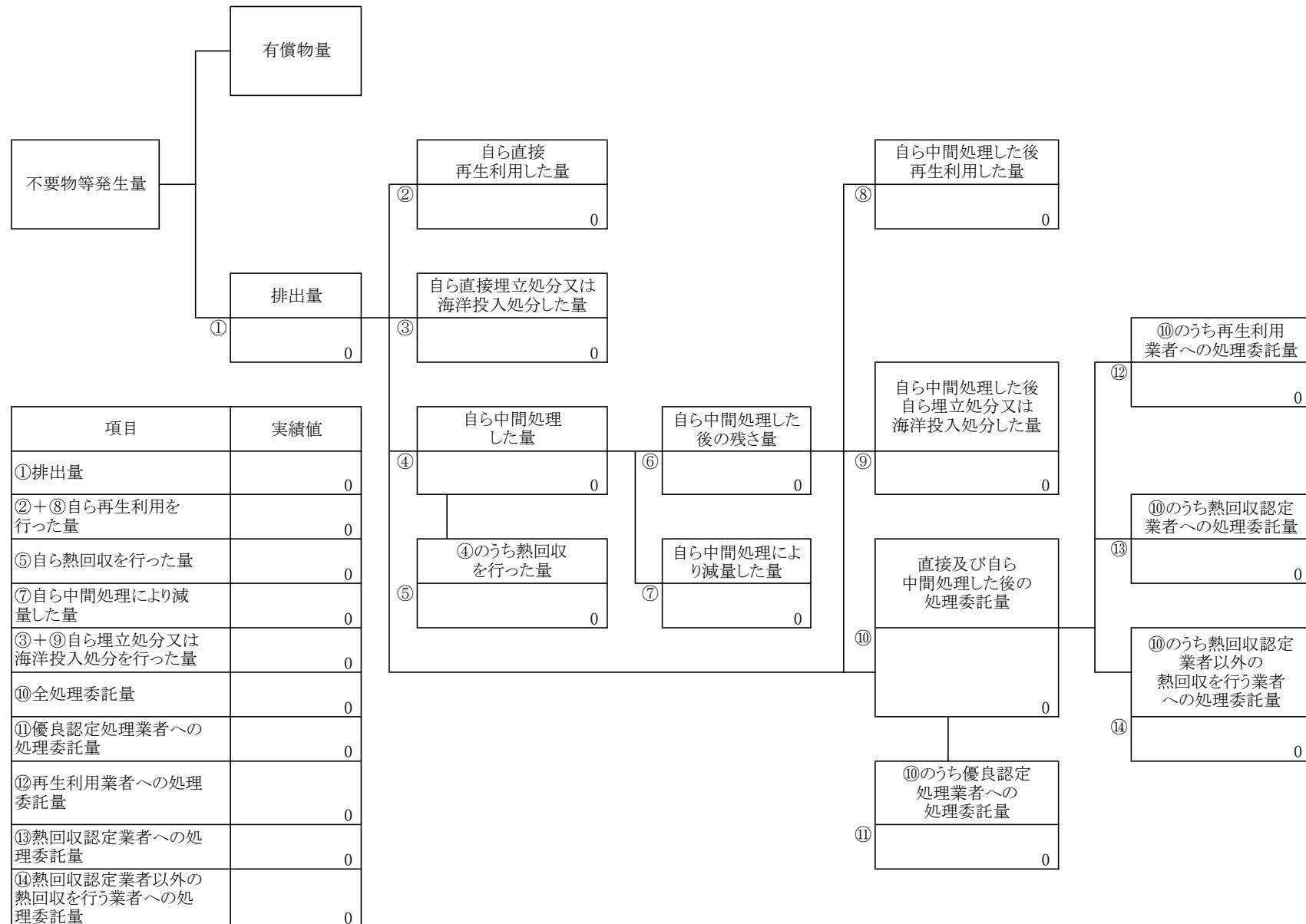
(第2面)



## 計画の実施状況

(産業廃棄物の種類：鉱さい )

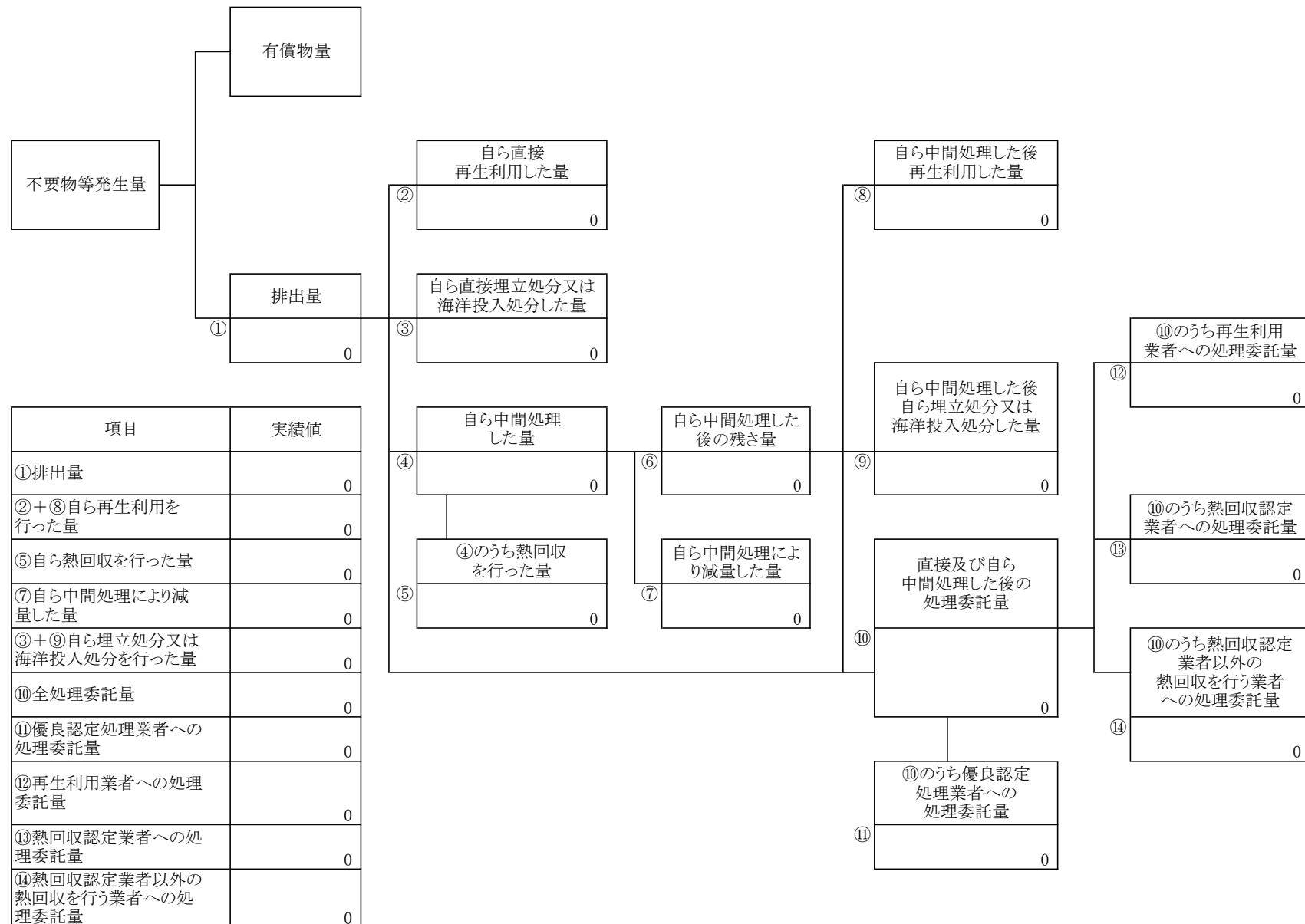
(第2面)



## 計画の実施状況

(産業廃棄物の種類：がれき類)

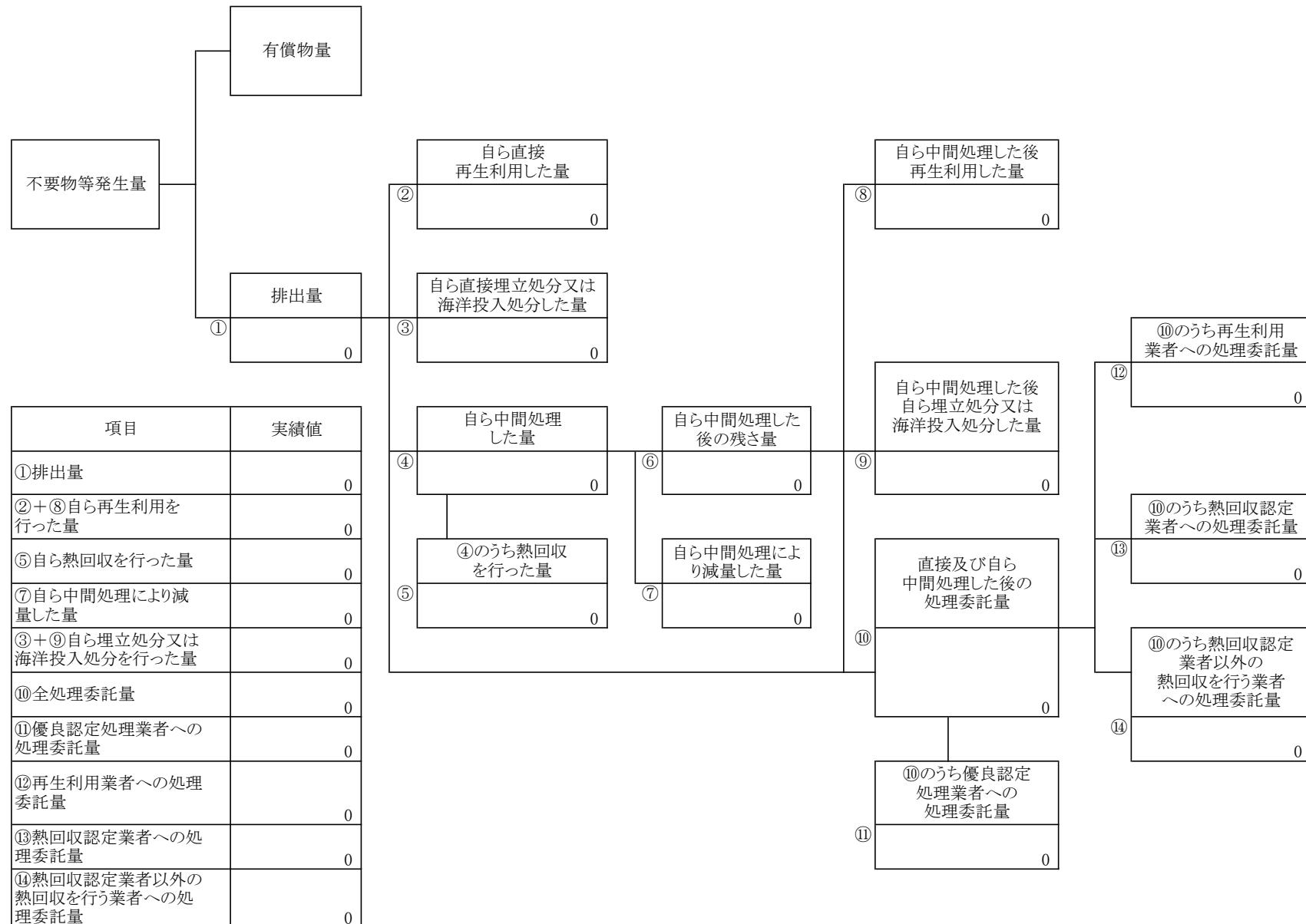
(第2面)



## 計画の実施状況

(産業廃棄物の種類: ばいじん )

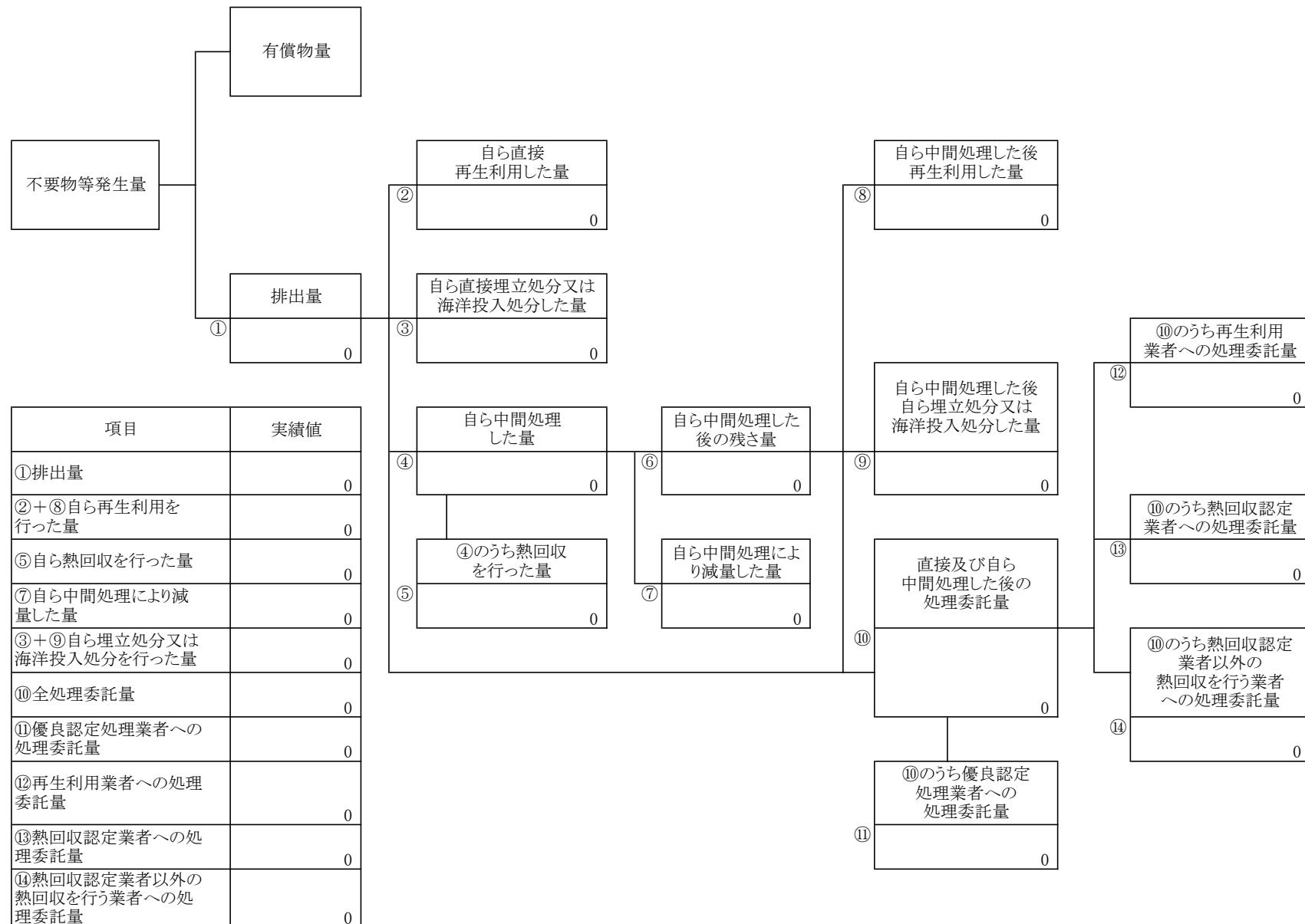
(第2面)



## 計画の実施状況

(産業廃棄物の種類: 紙くず )

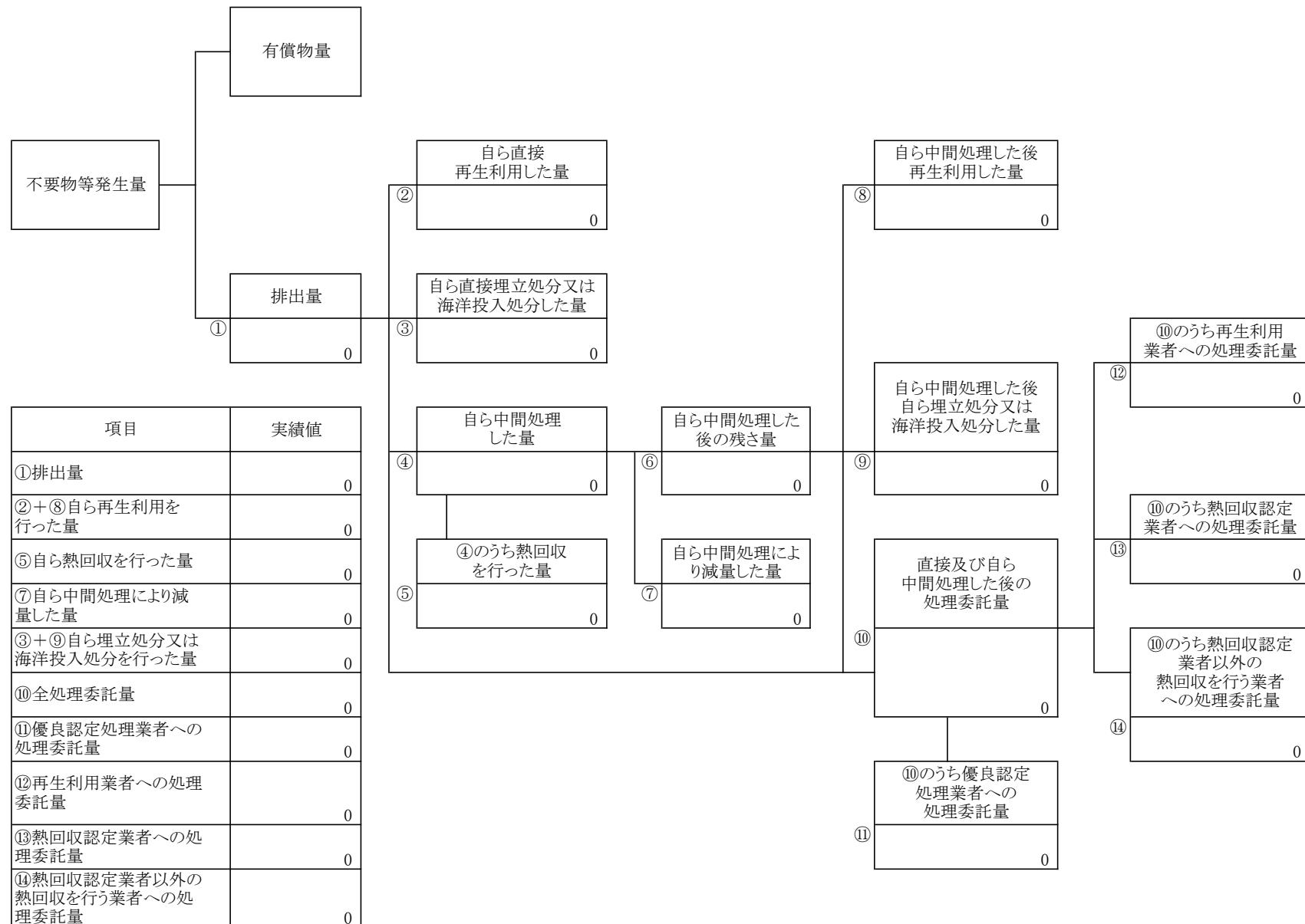
(第2面)



## 計画の実施状況

(産業廃棄物の種類: 木くず )

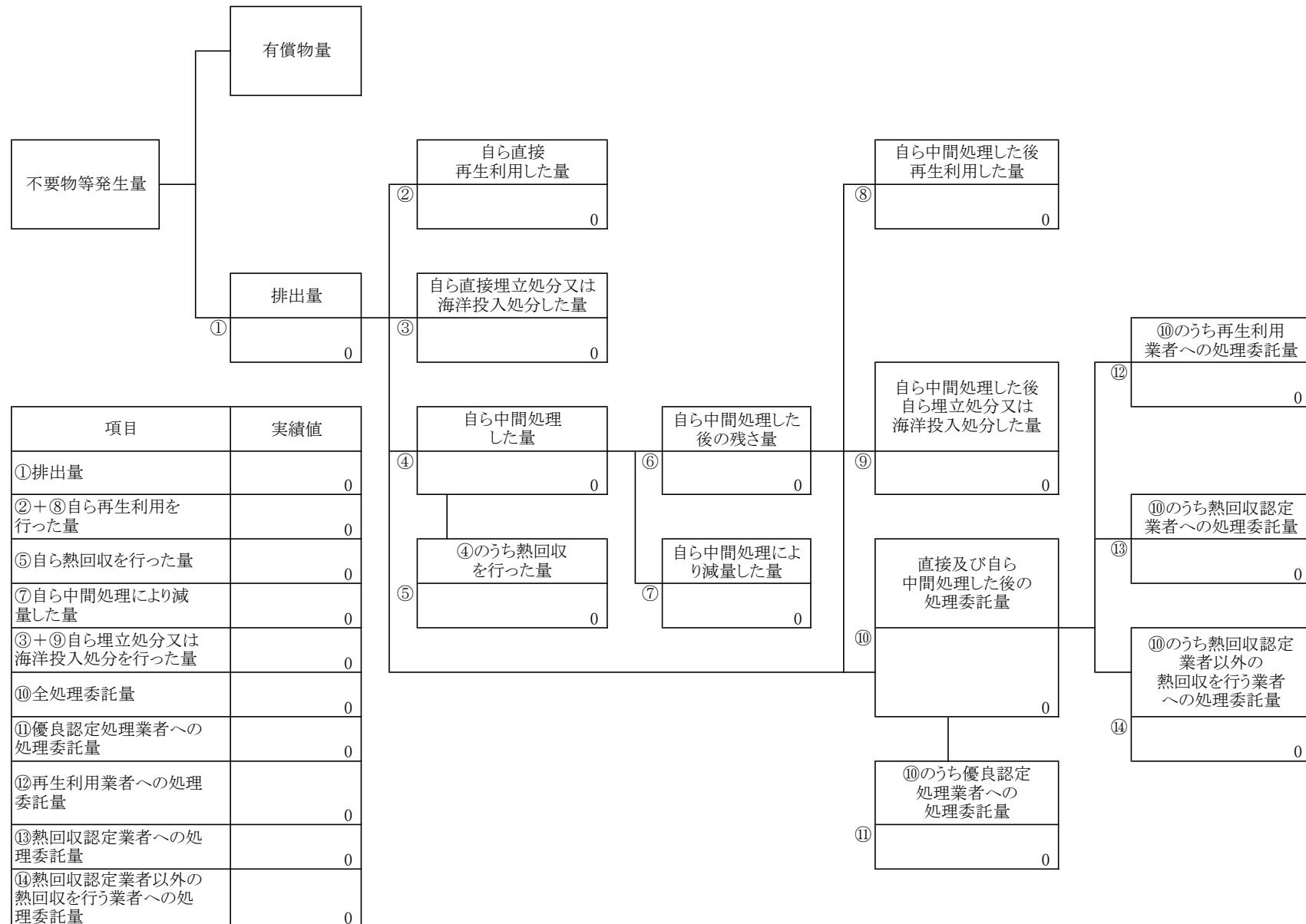
(第2面)



## 計画の実施状況

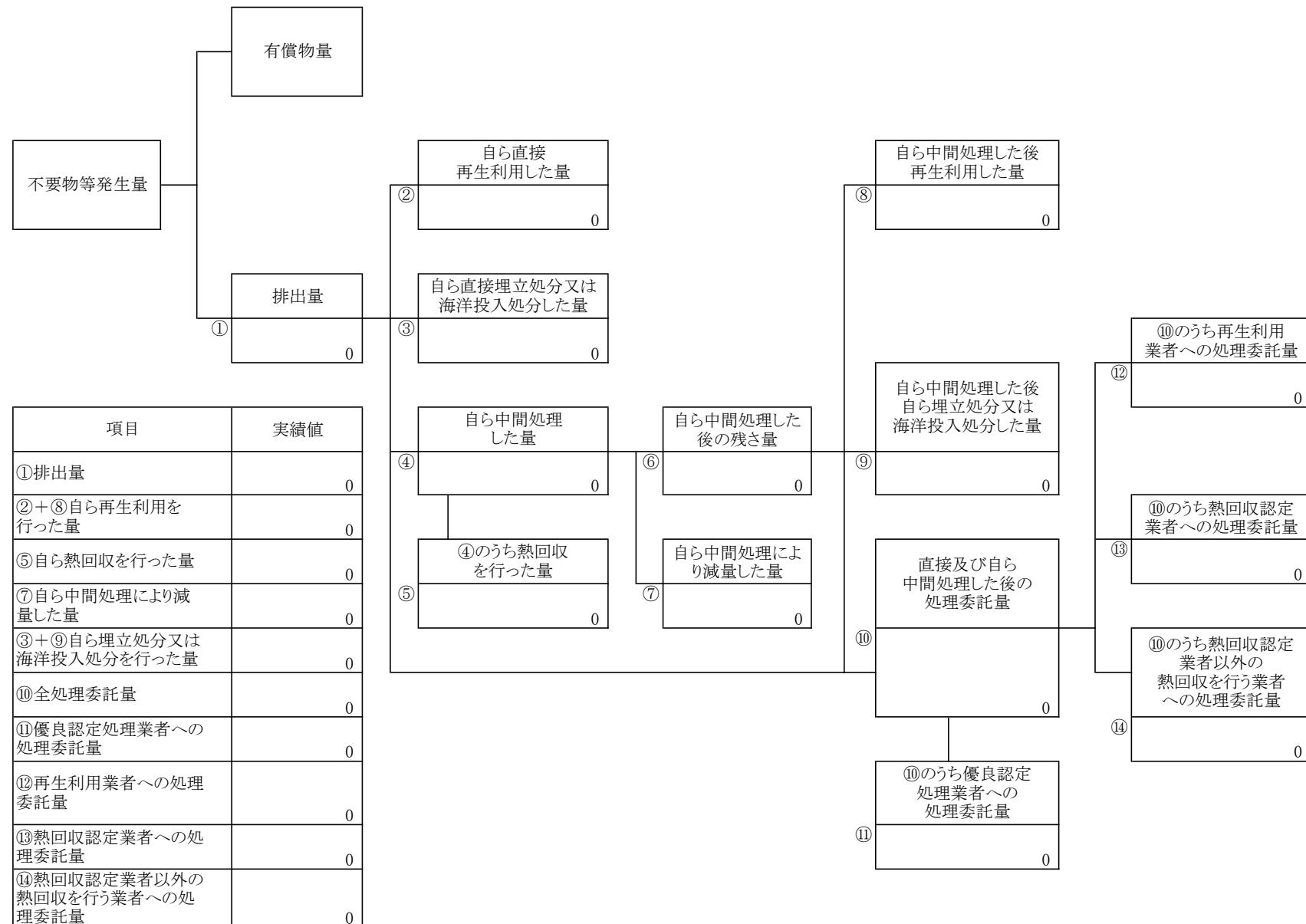
(産業廃棄物の種類：繊維くず )

(第2面)



## 計画の実施状況

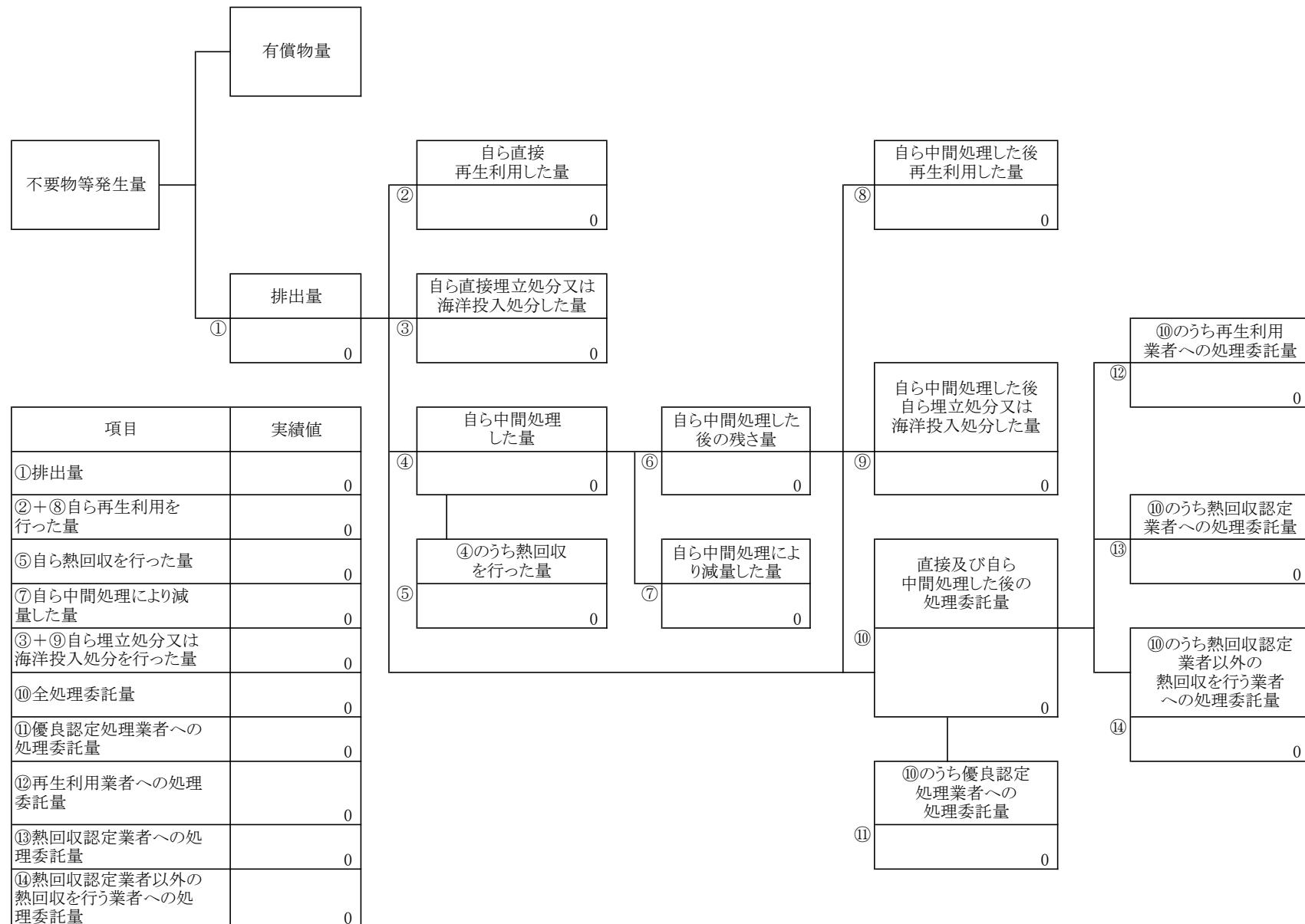
(産業廃棄物の種類：動植物性残渣 )



## 計画の実施状況

(産業廃棄物の種類：動物系固形不要物 )

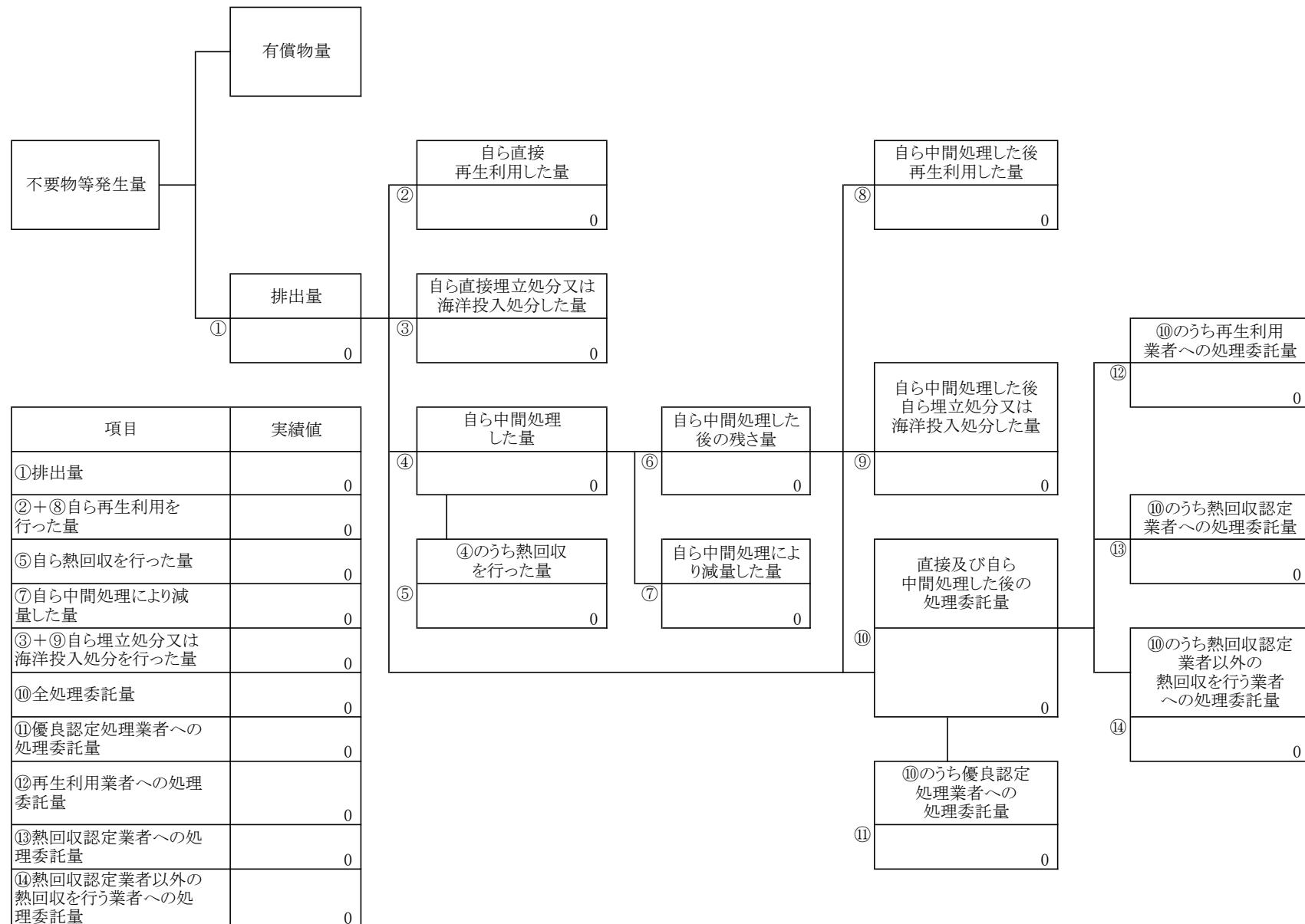
(第2面)



## 計画の実施状況

(産業廃棄物の種類: 石綿含有産業廃棄物 )

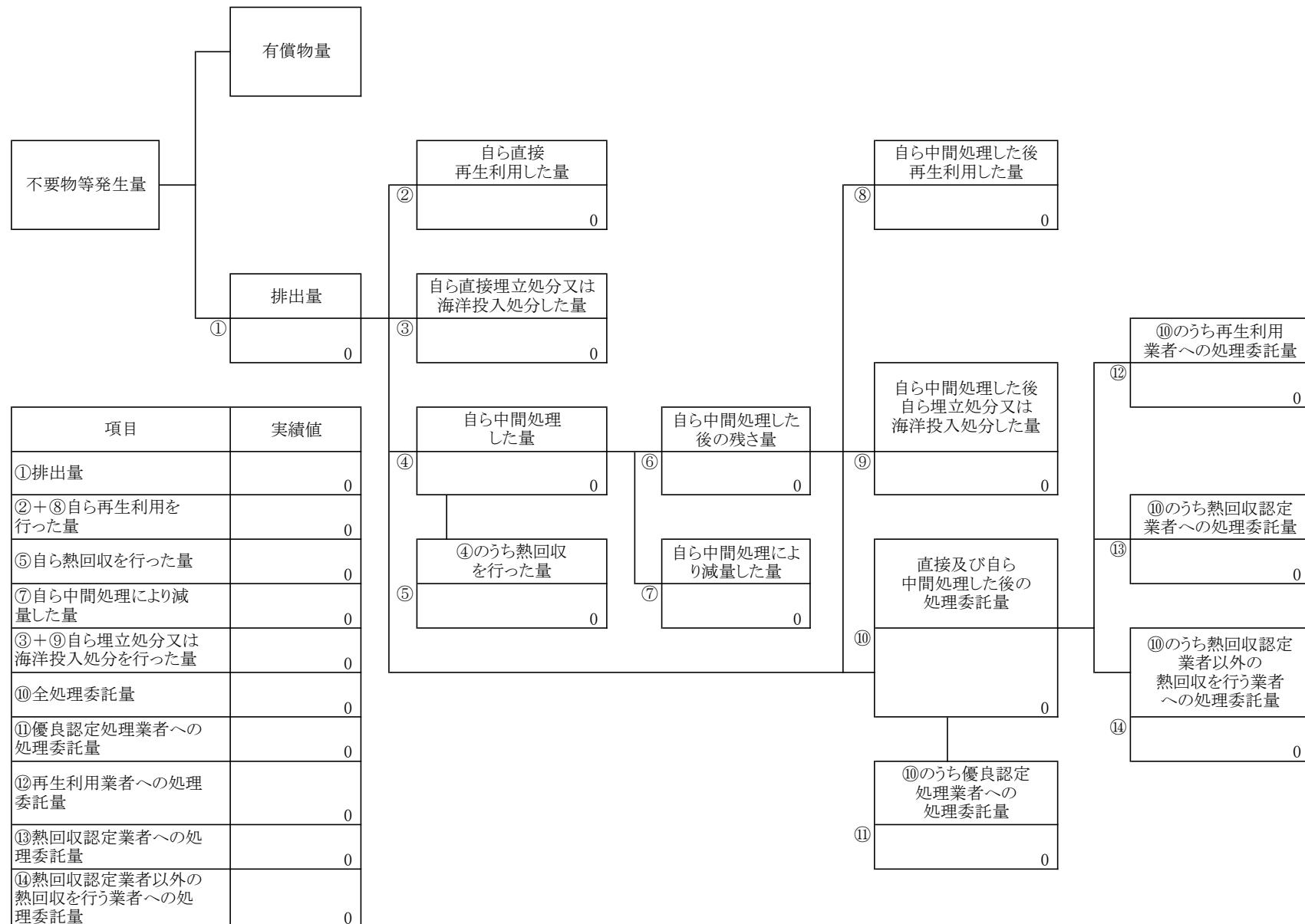
(第2面)



## 計画の実施状況

(産業廃棄物の種類: 廃石膏ボード )

(第2面)

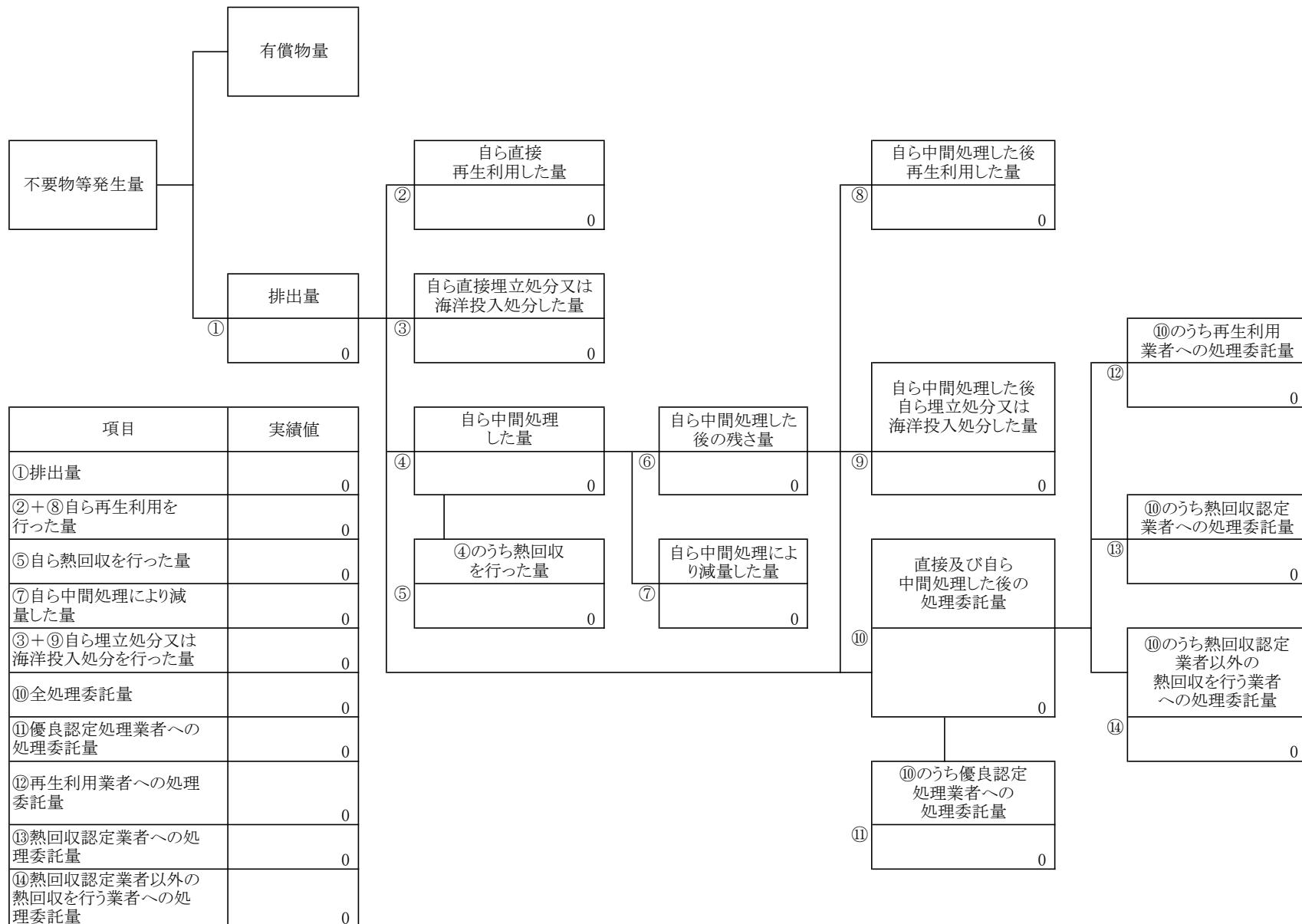


## 計画の実施状況

(産業廃棄物の種類: 混合廃棄物(安定型))

)

(第2面)

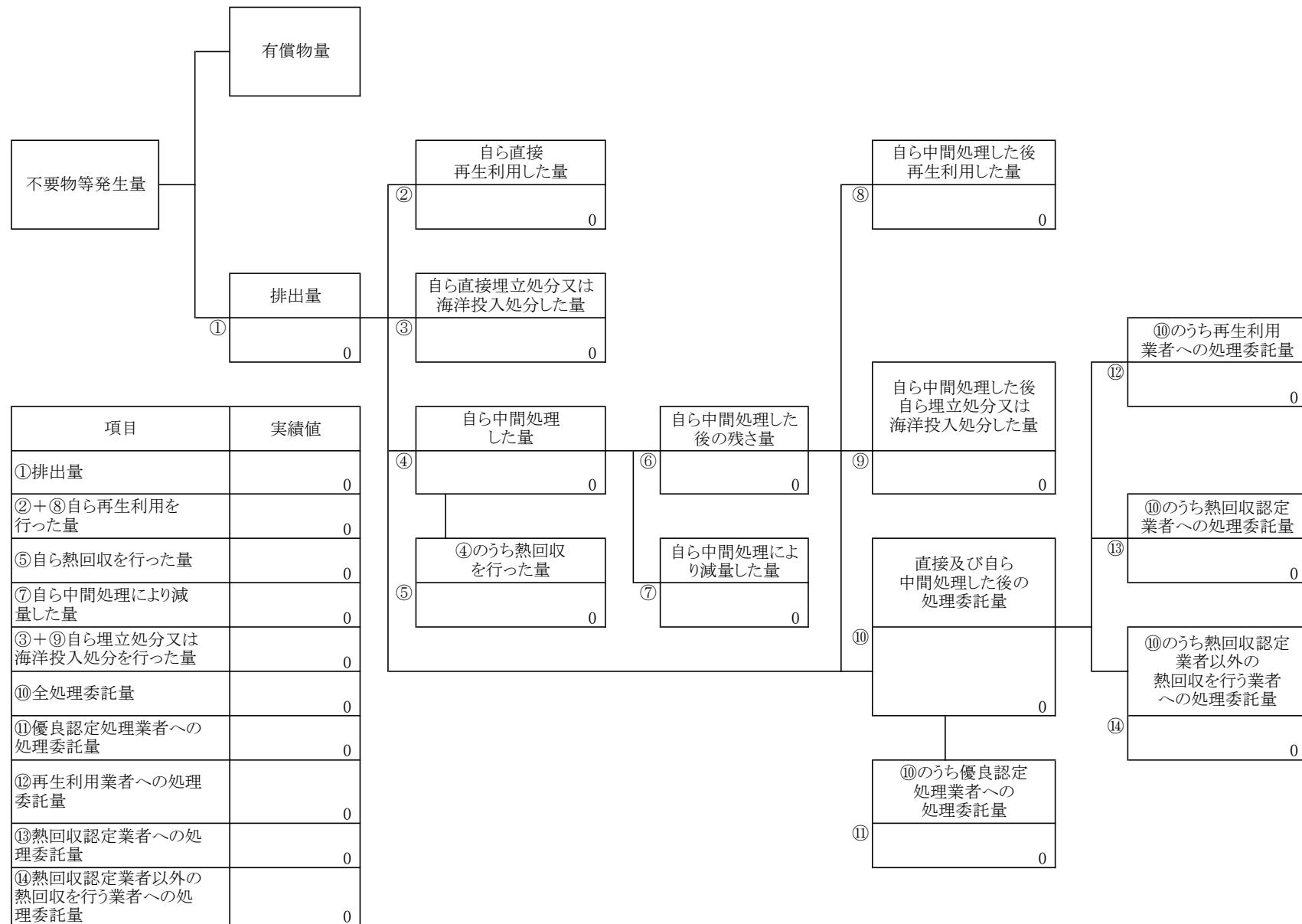


## 計画の実施状況

(産業廃棄物の種類: 混合廃棄物(管理型))

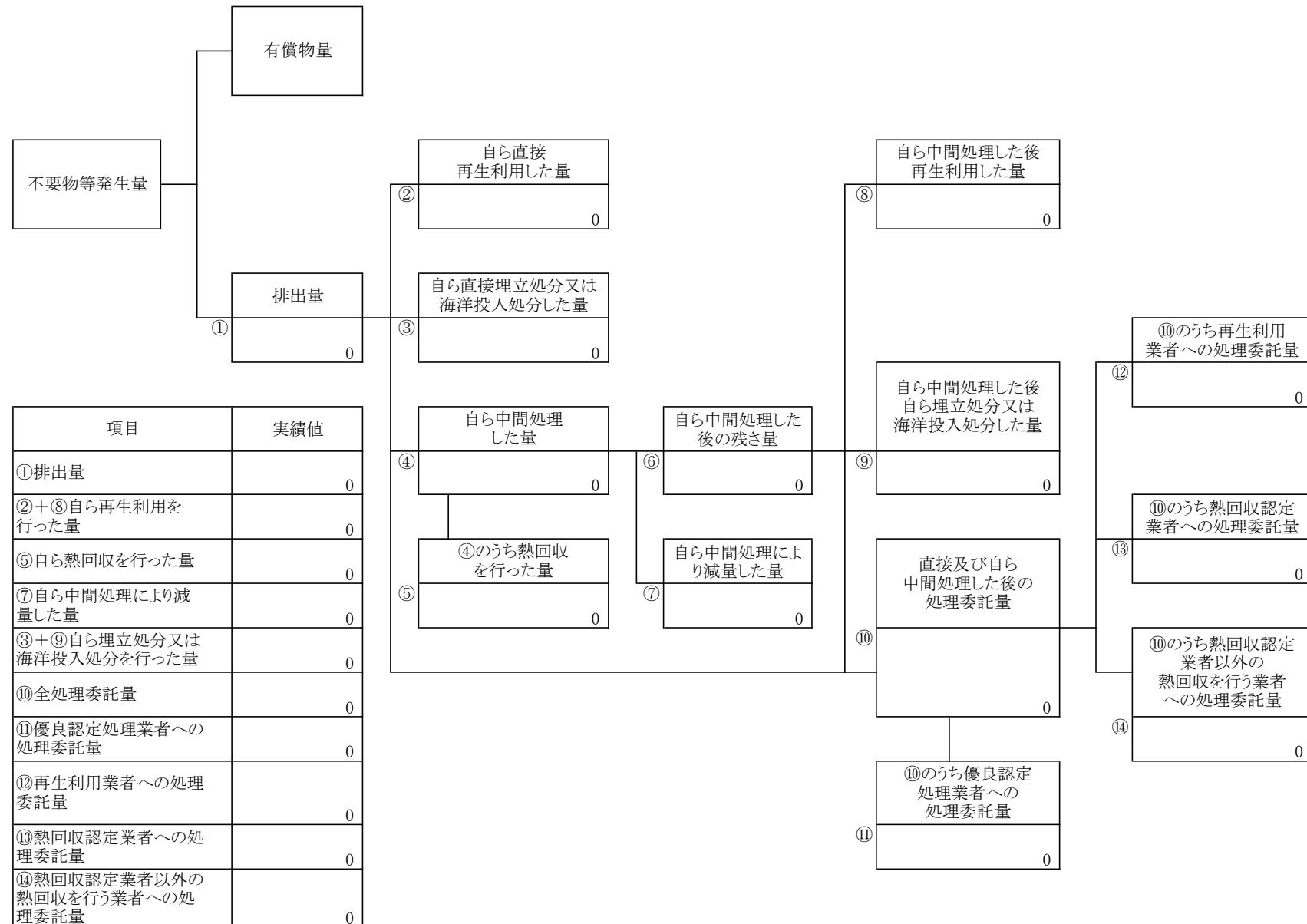
)

(第2面)



## 計画の実施状況

(産業廃棄物の種類: 蛍光灯・ランプ(水銀製品) )



## 備考

- 1 翌年度の6月30日までに提出すること。
- 2 「事業の種類」の欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
- 3 「産業廃棄物処理計画における目標値」の欄には、項目ごとに、産業廃棄物処理計画に記載した目標値を記入すること。
- 4 第2面には、前年度の産業廃棄物処理について、①～⑭の欄のそれぞれに、(1)から(14)に掲げる量を記入すること。
  - (1) ①欄 当該事業場において生じた産業廃棄物の量
  - (2) ②欄 (1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら再生利用した量
  - (3) ③欄 (1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら埋立処分又は海洋投入処分した量
  - (4) ④欄 (1)の量のうち、自ら中間処理をした産業廃棄物の当該中間処理前の量
  - (5) ⑤欄 (4)の量のうち、熱回収を行った量
  - (6) ⑥欄 自ら中間処理をした後の量
  - (7) ⑦欄 (4)の量から(6)の量を差し引いた量
  - (8) ⑧欄 (6)の量のうち、自ら利用し、又は他人に売却した量
  - (9) ⑨欄 (6)の量のうち、自ら埋立処分及び海洋投入処分した量
  - (10) ⑩欄 中間処理及び最終処分を委託した量
  - (11) ⑪欄 (10)の量のうち、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令 第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量
  - (12) ⑫欄 (10)の量のうち、処理業者への再生利用委託量
  - (13) ⑬欄 (10)の量のうち、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律 第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量
  - (14) ⑭欄 (10)の量のうち、認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量
- 5 第2面の左下の表には、項目ごとに、産業廃棄物処理計画に記載したそれぞれの実績値を記入すること。
- 6 産業廃棄物の種類が2以上あるときは、産業廃棄物の種類ごとに、第2面の例により産業廃棄物処理計画の実施状況を明らかにした書面を作成し、当該書面を添付すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。